

国内旅行における旅行者の健康問題

2006.12.14

旅行者の健康問題は、海外旅行だけではなく、国内旅行中においても発生しています。このたび、日本渡航医学会教育普及委員会は、国内旅行における健康問題の実態を明らかにする目的で、大手旅行会社の国内専門添乗員 100 名に対してアンケート調査を実施しました。その概要を紹介いたします。

国内旅行添乗中における急病人数(図1)

62%の添乗員の方々が、2005 年度 1 年間に自分が担当した国内旅行において、急病人を経験していたと回答しました。1 年間に 30 回もの急病人を経験したとの回答もありました。

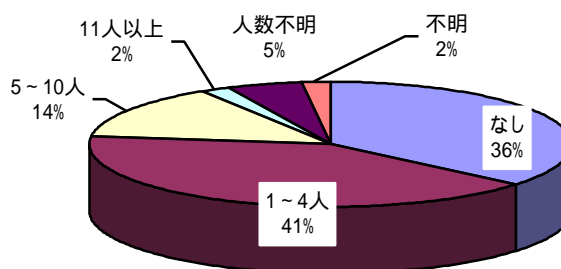


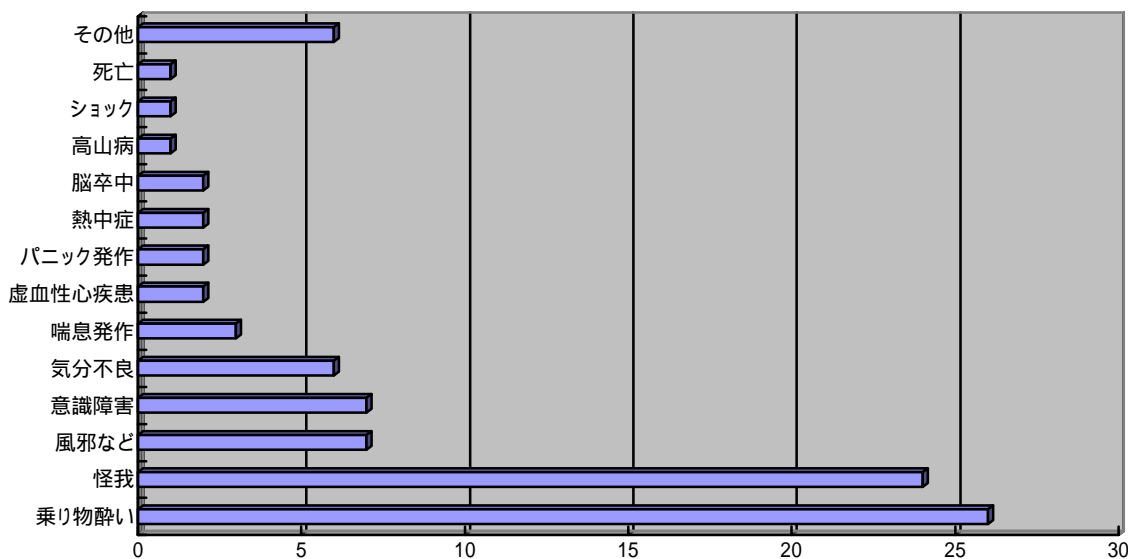
図1 国内旅行添乗中に発生した急病人数 (2005年度)

発生した急病人のデータ(図2)

今回のアンケート調査において情報が入手できた 90 名の急病人のデータ（性別、年齢、症状、発症場所など）を紹介します。

- 1) 急病人の年齢：70代 25名(27.7%)が最も多く、次いで60代 22名(24.4%)、10代 14名(15.6%)、50代(13.6%)の順でした。
- 2) 国内旅行における健康問題
 - 乗り物酔い、怪我、意識障害、風邪などが多く、頻度は少ないものの、ショック、虚血性心疾患、脳卒中や死亡ケースなどの重症例も発生していました。
 - 発症した場所は、移動中が最も多く、次いで観光中、旅館・ホテルの順でした。移動中は乗り物酔いが多く、観光中は怪我が多いことが判明しました。
 - 乗り物酔いは、バスの中での発症が圧倒的に多く、女性や若年者に多い傾向を示しました。
 - 怪我は、50歳以上の女性に多く、骨折ケースはすべて女性でした。
 - 重症ケース
 - 急病人の1割強は、脳梗塞・心筋梗塞・意識障害・ショックなどの重症ケースでした。
 - すべて60歳以上の高齢者でした。
 - 入浴中や登山中に発症したケースの半数近くは重症例でした。

図2 国内旅行の健康問題



国内旅行は、旅先の情報が得やすく、言葉の障害がないことから、ストレスが少ないと考えがちです。しかし、今回の調査でも明らかのように、国内旅行においても、環境の変化による健康のリスクは発生します。特に、高齢者や慢性疾患を持った方はリスクが高いと考えるべきです。

対策

- 1) 高齢者や慢性疾患を持った方は、旅行前に主治医の先生に相談し、簡単な健康記録書（自分の過去の病気、アレルギー体質の有無、病名、服用している薬剤名、服用量など）と健康保険証は必ず携帯すべきです。
- 2) 添乗員の方々や旅館・ホテルのスタッフの方々は、具合が悪くなった旅行者に適切に対応できるように、ファーストエイドを含むトラベルメディスン教育を受けておくべきです。

日本渡航医学会では、これらの急病人のデータを有効に活用して、国内旅行専門の添乗員の方々への教育を企画しております。さらに、国内旅行における旅行者の健康問題の予防に対してもさらに検討を行ってまいります。

お問い合わせ先：ヘルスツーリズム研究所
(<http://www.jtb.co.jp/healthtourism/index.asp>)